

巻末資料

スズメバチについて

スズメバチについて

1 生態

春になると 1 匹の女王バチが長い冬眠から覚め巣作りを始めます。働きバチは 6 月から 7 月頃に羽化を始め、9 月から 10 月頃オス蜂、新女王バチが羽化し、10 月頃にはハチの数はピークを迎えます。(キイロスズメバチなど 1 巣で最大数千匹という規模)

夏から秋にかけて新女王の誕生に伴い、巣を守るため特に攻撃性が高まります。

8 月・9 月・10 月が特に危険！！

2 営巣場所

樹の枝、樹洞、土の中、人家の軒先・屋根裏、壁の間、床下など。

巣が大きくなると気がつかない場合も多い。

八ヶ岳林間学園でも 25 年中に壁の間に巣が作られました。(平成 25 年 11 月 28 日撤去済み)



平成 25 年 8 月 八ヶ岳林間学園 40cm キイロスズメバチの巣

3 予防

スズメバチは、女王バチを頂点とした社会を形成しており、縄張り意識が高く、巣の防衛行動を持つため巣に近づく（10m以内）と警戒行動をとります。「カチカチ」と大顎を鳴らし周囲を飛び回る場合は、巣が近くある可能性があります。また、ハチの接近に驚き大声で騒いだり、手で払ったりという行動は却ってハチを興奮させ危険です。

スズメバチは、攻撃性が高いように思われることがありますが、巣を守るためであり基本的には何もしなければ襲ってくる可能性は低いです。

(1) ハチが寄ってきたら

- ・ 手で払ったり、駆け出したりせず、低い姿勢で静かにその場から遠ざかります。
- ・ 万が一ハチが体に止まったりした場合は、大声は出さず動かないようにします。

(2) ハチを刺激するもの

- ・ 黒色のもの
- ・ 臭い（ヘアスプレーや香水）
- ・ 大声・振動・物音

4 被害

スズメバチの毒は、激痛・腫れ・しびれ・吐き気やめまいなどを起させます。スズメバチの毒によるアナフィラキシーショックは、刺された後 10 分から 15 分ほどで血圧の低下・頭痛・意識障害などの全身症状が見られ、最悪の場合死にいたることが報告されています。

5 対応

(1) 準備

- ・ 過去にハチに刺されたことがある人は、万が一に備えて事前に医師へ相談しましょう。その際、場合によってはエピペンの処方を受け、使用方法についても確認します。
- ・ 引率者は、上記 2 点の児童・生徒がいないかを確認し、学校として対応を協議します。

(2) 刺されたとき

- ・ 傷口をきれいに洗い流す。（ハチの毒は水に溶けやすい）
- ・ 毒液を搾り出す。（学園にポイズンリムーバーがあるので必ず持参）
ただし、指された箇所（頭部等）によっては、ポイズンリムーバーの使用が困難な場合がある、その場合には爪などで押し出す。（毒液を搾り出すため、口などでの吸出しは危険）
- ・ 冷やす。

- ・ 抗ヒスタミン軟膏を塗る。(アンモニアは効果なし)
吐き気がある場合には、頭を横に向け吐物がつまらないようにします。

(3) アナフィラキシーショックが疑われるとき

- ・ アナフィラキシーショックが疑われるときは、速やかに医療機関に搬送する必要があります。搬送する場合には、移動させる際には、仰向けにして頭を下げる(背負わない)など、吐物をのどに詰まらせないようにして、呼吸を確保する必要があります。
- ・ エピペンを使用する。(使用方法を事前に必ず確認しておく)

エピペンの使用は原則本人が行うこととされています。しかし、ハチに刺された精神的ショックから本人が注射できない場合には、本人に代わって注射します。(教員がエピペンを注射することは、反復継続する意思がないと認められるため医師法違反にはなりません。:「救急救命処置の範囲等について」平成21年3月2日改正)

エピペンによる副作用は小さいと言われており、日本学校保健会は「学校での食物アレルギー・アナフィラキシー対応」の中で、できるだけ早期に、呼吸器症状出現時には投与するようにしてください。注射部位は大腿外側広筋または上腕三角筋です。注射後、10~15分で症状に改善がみられない時は追加投与が可能です。再三になりますが、ここで大事なのは「迷ったら打つ」ようにしてください。」としている。

一度にたくさんの箇所を刺されたり、じんましん、吐き気、呼吸困難などの症状が現れたときは一刻も早く医師の治療を受けさせます。

6 ハチの種類

(1) キイロスズメバチ

日本に生息するスズメバチとしては営巣規模が最も大きく、大きな巣は1メートル近く、ハチの数もピーク時には数千匹に達する。人家の軒先などにも巣を作り、攻撃性がかなり強いため、日本でも被害報告が多い。

(2) オオスズメバチ

スズメバチ類の中でも世界最大のハチであり、営巣場所は土中や樹洞。非常に獰猛で攻撃性が高い。土中に巣を作ることが多いため巣の特定が難しい。

(3) アシナガバチ

スズメバチ科のため、毒性がある。スズメバチよりおとなしいが、刺された場合にはアナフィラキシーショックの可能性がある。刺されたときの痛みはスズメバチよりも強いといわれている。

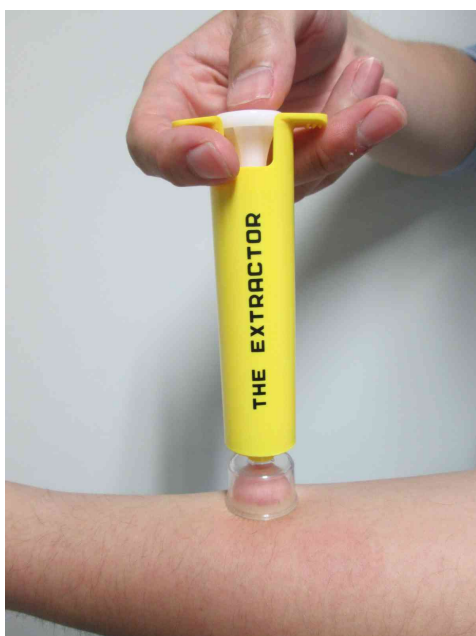
ポイズンリムーバーの使用方法

八ヶ岳林間学園及び興津自然学園の保健室には、ポイズンリムーバーが常備されています。学園に到着したら、引率教員全員でポイズンリムーバーの使用方法の確認を行い、学園外での活動の際には、ポイズンリムーバーを必ず携帯してください。



1 カップ（マウスピース）の選定

ポイズンリムーバー本体に先端に傷口に応じたカップをはめます。カップは大小4つのサイズがありますが、一番小さいサイズのカップの両端を使用することで、5通りに使えます。



2 吸引の仕方

本体の白いピストンレバーを引き、カップの面を傷口にあてます。

親指でレバーの頭部を押し、レバーの止まるまで押し下げてください。吸引が始まり、皮膚の表面がカップ内に吸引されるのが見えます。

60～90秒間そのままにしておき、時間がたったらピストンレバーを引き上げてポイズンリムーバーをはずし、吸引を終了します。

八手に刺された場合は吸引を数回繰り返し（3分以上）毒液を排出してください。

ポイズンリムーバーを外す際は、皮膚の表面に吸出された毒液が飛び散らないように注意してください。

使用後は、カップを外して洗い、付着した毒液を取り除き消毒してください。

消毒液は学園の保健室に常備してあります。）

ポイズンリムーバー本体は、破損する恐れがあるため洗わないでください。

ポイズンリムーバーの収容ケース内にも使用方法の説明書が入っております。

目黒区立小・中学校自然宿泊体験教室
ハチ刺され事故予防マニュアル
平成26年度

平成26年4月発行

発行 目黒区教育委員会

編集 目黒区教育委員会事務局教育指導課